

商店系幹線街路における路上駐車空間占有実態とその制御方向

松尾橋梁株式会社 正員 ○ 鈴木 潮
徳島大学工業短期大学部 正員 山中 英生

1. はじめに 都心部における路上駐車は、駐車場の不足によるものと考えられる。しかし、短時間の駐停車が多数を占めることや、荷降ろし等の駐停車利用からみて、路上駐停車を全く不可能にすることは現実的でない。そのため、路上駐車を駐車時間、また駐車目的によって選択的にコントロールしようとする考え方が始まっている。

図-1はこのような駐車対策の考え方を概念的に示したものである。すなわち、従来路上駐車は駐車時間・駐車主体の制御が全くなく、無秩序に発生している状態であり、他の駐車施設との役割の明確化がなされていない。これに対して、駐車時間等を制約することによって、無料の路上駐車を認める範囲と有料の路上駐車を明確化しようとするものである。

そこで本研究では商店系幹線街路における路上駐車の改善方策を検討することを目的として、自動車交通・駐車・歩行者・自転車・占有物等の街路空間占有量を把握するとともに、制御すべき駐車の範囲を住民意識から分析した。そして、駐車制御を行い街路空間を再配分する方法についても検討した。

2. 街路利用実態の分析

調査対象地区として、徳島市内中心部に位置する両国橋通りの160mの区間を選んだ。この通りは、全幅員が19.3mで両側4車線の車道(幅12.1m)と歩道(片側3.6mづつ)が設置されている。沿道は物販を中心とした小型の小売店舗が並んでおり、商店街には一時預かり駐車場もあるが荷降ろしや短時間の買物を目的とした路上駐車が多くみられる。調査は、幅員や区間長、歩道占有物などを実査し、交通量(調査時間7:00~19:00)と駐車量(調査時間9:00~12:00, 16:00~19:00)を観測した。

図-2は駐車時間別の駐車台数の分布を示している。これによると、10分以内の駐車が台数では7割を占めるが延べ駐車時間では40%程度である。次に各街路利用主体の空間利用量を把握するためオキュパンシー指標¹⁾を用い、この結果を図-3、図-4に示す。これを見ると、自動車系全体の占有率は4割程度となり駐車はそのうちの3割程を占めることがわかる。10分以上の駐車は駐車全体の2/3程度で、この駐車がなければ自動車系全体の占有は平均して3割程度になることがわかる。

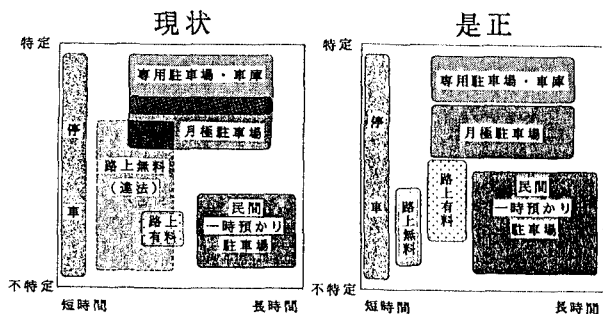


図-1 駐車対象の概念図

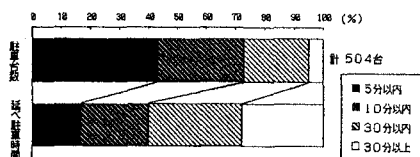


図-2 駐車時間別駐車台数

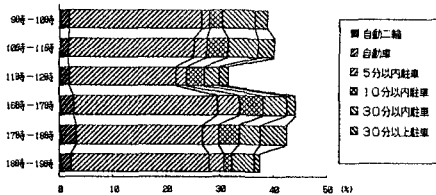


図-3 車道空間占有率

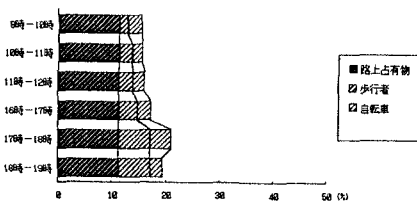


図-4 歩道空間占有率

3. 住民意識調査

路上駐停車利用が許容される範囲を検討するため、沿道商店と周辺の一般住民にアンケートを行った。

調査結果を図-5に示す。沿道商店での買物と荷降ろしにおいては許容度が高く10分以内の駐車であれば50%以上の人が駐車をしてもよいと考えている。打ち合せ・食事による駐車は禁止にすべきだと考えている人は多い。沿道住民は買物・荷降ろしについて10分以内の駐車を5割から6割程の人が認めて良いと考えている。周辺住民では荷降ろしについては6割程度で、買物は4割から5割の人が認めて良いと考えている。このことより、認められる駐車としてまず荷降ろしが挙げられ、ついで買物が挙げられる。その駐車時間としては10分以内が考えられる。

4. 道路利用状況に着目した道路空間再配分

現状の交通状況および住民意識を踏まえたうえで、車道と歩道の間に駐停車スペースを設ける計画案として図-6の3案を作成した。

駐車スペースでの駐車時間は10分以内に限ると想定し、現状での10分以内の駐車の平均駐車需要がが納まるよう駐車スペースを計12台分設けた。

各再配分案の各利用主体別の空間占有率を車両系オキュパンシーを縦軸に歩行者系オキュパンシーを横軸にとり、プロットしたものを図-7に示す。車両系オキュパンシーは全車道面積に対する自動車・自動二輪交通および駐車の占有量の割合で、歩行者系オキュパンシーは路上占有物を除いた全歩道面積に対する歩行者・自転車の占有量の割合である。結果を見ると両国橋において案A、Bとも現状に対し歩行オキュパンシーが上がるが車両オキュパンシーは下がっている。案Cは車線を減らしている分車両オキュパンシーが上がっている。しかし車道に対する占有率は50%程度に納まっており、車線を減らすことによる移動車両に対する影響は小さいものと思われる。

5. おわりに 今回の対象とした街路では自動車交通が少なく、車道空間を駐停車空間にすることで調整が可能と考える。この他にも状況の異なる街路についても同様の検討を行っている。今後は利用主体別の空間占有状況の望ましさを評価する方法を開発し、最適な空間配分の考え方を検討したい。

[参考文献]

1) 塚口博司、毛利正光：歩車のオキュパンシー指標の提案と住区内街路計画への適用，土木学会 論文集, No383, 1987.

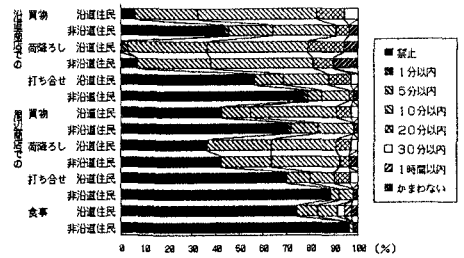


図-5 駐車目的別の許容駐車時間

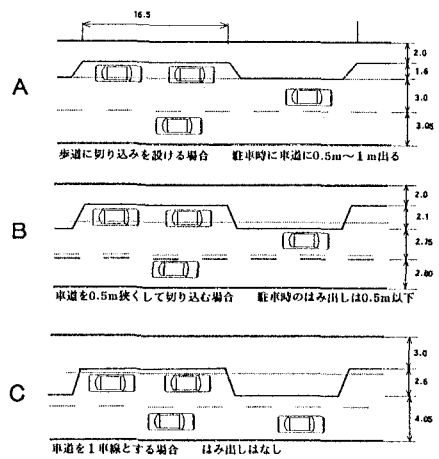


図-6 駐停車スペースの設計案

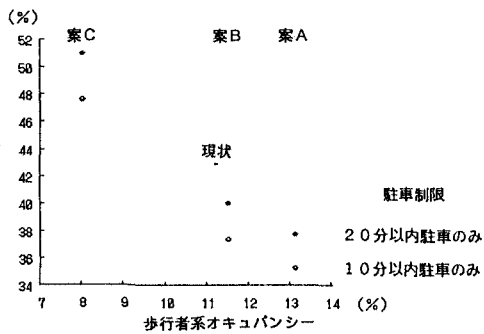


図-7 計画案の空間占有率